令和8年度畜産関係補助事業の要望調査

※下記内容は、要綱策定に伴い、大幅に変更する可能性があります。

補助メニュー	事業実施主体	補助率
1 持続的な畜産経営を支援		
1-① 自給飼料生産・利用のための草地整備改良、生産機械、給与機械の整備		
要件 自給飼料の生産拡大		
対象 自給飼料の生産拡大を行う場合、生産機械、給与機械 ※食用米に使用できる汎用性の高いものは不可 例：WCS専用収穫機、細断型ロールベアラー、飼料用米破砕機、乾草調製機械、播種機、ラッピングマシン、飼料攪拌機、ペールグラフ等 牧草の作付けを拡大する場合、種子・除草剤・土壌改良材・肥料 既存草地の更新を行う場合、種子・除草剤・土壌改良材・肥料	認定農業者（法人、10ha以上の飼料生産基盤を有する個人）、機械共同利用集団 認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体 〃	1/3以内 1/3以内 〃
1-② 稲わらの利用促進		
要件 稲わら収集面積の拡大		
対象 稲わら用保管施設の整備、改修	認定農業者（法人、稲わらを10ha以上収集する個人）、機械共同利用集団	1/3以内
1-③ 耕畜連携を推進する堆肥生産施設・機械整備、ストックヤードの整備		
要件 堆肥施用面積の拡大		
対象 堆肥散布機械、堆肥積込機、堆肥運搬機等 堆肥生産施設または堆肥保管施設の整備、改修 堆肥生産・保管施設を整備・改修する場合、フロントローダー、袋詰機等	堆肥共同利用集団 〃 〃	1/3以内 〃 〃
1-④ 省コスト・省エネ化機器の整備		
要件 導入する機械設備に関連する電力使用量又は燃料使用量の削減 ※検討中		
対象 隔日集乳に対応できる大型バルククーラー ヒートポンプ ヒートポンプを導入する場合、省エネバルククーラー	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体 〃 〃	1/3以内 〃 〃
2 スマート農業技術の推進		
2-① スマート農業技術を活用した省力化機械の整備		
要件 生産性向上に係る指標の改善		
対象 スマート農業機器 例：分娩・発情監視システム、ほ乳ロボット、自動給餌器、行動モニタリング装置、ICT放牧牛管理システム、飼料タンク残量監視装置、畜舎用ファン・細霧装置（センサー等による自動制御機能を有するものに限る）等	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	1/3以内
3 気候変動に対応する取組を支援		
3-① 暑熱対策に必要な機器、資材の導入を支援		
要件 生産性向上に係る指標の改善		
対象 暑熱対策に必要な機器、資材 例：屋根の断熱材施工、断熱・遮熱塗料・パネル施工、屋根散水装置、換気扇、細霧・散水装置、大型扇風機（移動型の場合は税別単価100千円以上のものに限る）等	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	1/3以内
4 県産ブランド生産体制の強化		
4-① 肉用牛の飼養規模拡大のための施設整備、高機能化・長寿命化		
要件 飼養頭数及び生産頭数の増加		
対象 牛舎の新築、増築、改修	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	1/3以内
4-② 肉用牛の繁殖素牛導入を奨励		
要件 飼養頭数及び生産頭数の増加		
対象 繁殖用雌牛（外部導入、自家保留）※黒毛和種、褐毛和種、日本短角種	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	外部導入197千円/頭 自家保留 80千円/頭
4-③ 秋田牛の肥育素牛導入支援		
要件 畜産クラスター事業で肥育牛舎を整備		
対象 肥育素牛の預託導入に係る利子相当額 上限は肥育牛舎満頭数まで	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	1/2相当(14千円/頭)
4-④ 比内地鶏の飼養規模拡大のための施設・機械整備		
要件 飼養羽数及び生産羽数の増加		
対象 比内地鶏飼養管理施設 鶏舎を整備する場合、附帯資材（給水器、給餌機、初生雛用ヒーター、防鳥ネット等） 機械（除雪機（ロータリー式に限る））	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体 〃 〃	1/3以内 〃 〃
5 酪農経営の強化		
5-① 乳用初妊牛の導入を奨励		
要件 飼養頭数及び生乳生産量の増加		
対象 初妊牛 ※ホルスタイン種、ジャージー種、ブラウンスイス種 能力要件を撤廃	認定農業者、畜産クラスター計画の中心的経営体	220千円/頭
6 新規就農者のスタートアップをサポート		
6-① 新規に畜産に取り組む農業者の営農計画実現を支援		
要件 1～5のメニューに準じる		
対象 1～5のメニューに準じる 特用家畜（綿羊、山羊、家兔、馬）の素畜導入、施設整備（畜舎・堆肥舎） その他、就農計画の実現に必要な機械・施設等	認定就農者 〃 〃	1/3以内 新規参加者は1/2以内 〃 〃